

「そうぢやろうけども、マア／＼妾に免じてマア／＼、マア／＼」

又マア／＼云ふて内へ入れて寝さしました、後へ戻つてきたのが喧嘩極道

「拍子が悪いな、昨晚は此處にうどん屋が居よつたのに今晚はうどん屋も居よらん、歸んで婆と喧嘩を……」

と戻つて來ますとお婆さん昨晚は怒られたので、今晚は起きてチャンと門口までお出迎ひ

「オ、兄歸りやつたか甚い早かつたな、今晚は其方そなたの好きな溫い御膳に生節せいせつのお菜なまいや、御膳食べやるかへ、肩揉か足擦ろかへ」

「フム今晚は俺の怒る事を無い様にしやがつた、然うしてみい怒りとうても怒られへんわい、飯よそへ」

御飯を食べますと倒の肩揉め足擦れと十八番で寝て仕舞ました、翌朝お婆さんはモウ一人言と云ふ譯にいきまへんので外へ出て

「隣の佐助さんお早うさん」

「お婆んお早うさん、甚い早いやないか」

「佐助さん誠に濟みまへんが内の兄を起しとくなさらんか」

「イヤお婆ん堪忍して、お前處の兄を起すのんは、忘れもせんモウ先頃さきやつた兄を起して呉れと云ふ

ので内へ這入つて息子起きて仕事に行きやと起したらフムと云ふて起きて仕事に行たので、ア、年は藥やなア、今日は素直に起きて仕事に行たわいと嬉んでたんや、日が暮に路地口に立てたら其處へ息子が戻つて來て、佐助はん今朝程は大きに憚りさんと云ふたので、私が精出して仕事に行きやと頭を出すと、拳骨でゴン／＼のゴンと續けて七ツ殴られた彼の時私はフラ／＼が起たで、あんな無茶な息子を起すのんはモウ御免蒙る」

「別に手を掛けて起して貰はいでも内の兄は火事が好きでござりますで、火の廻りの拍子木を打つて火事や／＼と云ふとくなされ、妾は金盥を叩きますで」

「お婆ん堪忍していな、内に子供が三人も有るね、子供が見たら笑ひよるがな」

「何うぞ佐助さん、此年寄を助けると思ふて」

「何時もお婆んが老年寄つて子供の爲に苦勞をするのが愛いとい依つてに、内の嬬に怒られてるねが何うも仕方がない遣つたげる、お婆んも遣りいな」

「佐助さんお頼申します、火事ぢやア………火事ぢやア………」(ガンガラガン)

「阿呆らしなつて來た、四十三にも成つて此様な事をせんならんとは、厄祟りや、火事や火事や(チヨン／＼)火事だつせ、火事やがな」(チヨン／＼)

「火事ぢや………火事ぢや………」(ガンガラガン)